21　次の詩は白居易の「中隠」という作品である。よく読んで、後の問いに答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名や返り点を省略した箇所がある。

〈岐阜大〉二〇一九年度出題

大 　 　㆓　朝 　㆒ 小 　 　㆓　丘 　㆒

丘 　 　 　冷 　落 朝

ａ不㆑　如 　㆓　中 　㆒ 　㆓　留 　 　㆒

１㆑　 　似㆑　 ㆑　 　 　㆑

不㆑　㆓　 　一㆑　力 　㆓　 　一㆑　〔　Ａ　〕

㆑　 　㆓　公 　事㆒ ㆑　 　㆓　俸 　銭㆒

２君 　若 　好 　登 　臨 城 　南 　有 　秋 　山

君 　 　㆓　遊 　㆒ 城 　 　㆓　春 　園㆒

君 　 　㆓　一 　㆒ 　 　㆓　賓 　㆒

洛 　中 　㆓　君 　子㆒ ㆔　 　㆓　歓 　㆒

君 　 　㆓　高 　㆒ ｂ但 　 　 　㆑

　㆔　車 　 　 造 　 ㆓　門 　㆒

人 　生 　㆓　一 　㆒ 　道 　㆓　 ㆒

　㆓　凍 　㆒ 　㆓　憂 　患㆒

　 　中 　 　 ㆑　 　 ｃ且

３窮 　 　与㆓　豊 　約㆒ 　㆓　四 　 　㆒

（『白氏文集』による）

（注）

丘樊…山中。

囂諠…騒々しい。

留司官…ここでは洛陽勤務の官をさす。

賓筵…宴席。

造次…気ままに。

餒…飢え。

問１　二重傍線部ａ～ｃの読みを、送り仮名も含めて、平仮名で記せ。仮名遣いは問わない。

問２　〔　Ａ　〕に入る最も適切な漢字を次から選べ。

ア　苦　　イ　乱　　ウ　餓　　エ　渇　　オ　寒

問３　傍線部１を現代語訳せよ。

問４　傍線部２をすべて平仮名で書き下し文にせよ。仮名遣いは問わない。

◎問５　白居易は「大隠」と「小隠」をどのように認識しているのか、わかりやすく説明せよ。

◎問６　傍線部３を踏まえて、自居易は「中隠」の良さがどのようなところにあると考えているのか、わかりやすく説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　ａ＝しかず　　ｂ＝ただ　　ｃ＝かつ

問２　オ

問３　中隠はＡ街中にいるようでもあり、Ｂ山中にいるようでもある。

ＡとＢの内容が並列されていることが必須。「似」を「似ている」などと直訳しているものは全体から減点２。

Ａ＝５〔「中隠は」はなくても可。「出」は「出仕している」などと訳していても可。〕

Ｂ＝５〔「処」は「隠居している」などと訳していても可。〕

問４　きみもしりんをこのまば　なんにざんあり

問５　Ａ大隠は騒々しい街中に暮らして多忙な日々を送り、Ｂ小隠は物静かな山中に隠棲し、飢えと寒さに苦しむと認識している。

Ａ＝５〔街中は騒々しいという内容がなければ減点２。街中の暮らしは忙しいという内容がなければ減点２。〕

Ｂ＝５〔山中は物静かだという内容がなければ減点２。山中の暮らしは衣食に困るという内容がなければ減点２。〕

問６　　中隠はＡ困窮と栄達、富貴と貧賤の中間に位置するような存在であり、  
Ｂ俗事に煩わされず、適度な収入があるため、Ｃ悠々自適の生活を送ることができるところ。

Ａ＝４〔「四者」の内容が示せていれば可。「困窮」「栄達」「富貴」「貧賤」がなければ一つにつき減点各１。〕

Ｂ＝４〔隠遁生活を送るがゆえの利点がなければ減点２。官職に就くがゆえの利点がなければ減点２。〕

Ｃ＝２〔好きな時に好きなことができるという内容が書けていれば可。〕

【書き下し文】

はにみ　はにる

丘樊はだ　朝市は太だ

問１ａかずとり　れてのにるには

づるにてたるに似　にずたに非ず

ととをせず　たゑととをる

をはるまでく　にひてり

問４しをまば　に有り

君若しをせば　に有り

君若しせんとせば　にでてにけ

く　てをにすべし

君若しせんと欲せば問１ｂだ らくをへ

亦たのの　としてにる無し

に処り　のつながらうしし

なればちにしみ　なればち多し

だの中隠ののみ　をすことにして問１ｃつし

とと　にのに在り

【現代語訳】

大隠は都心に住み、小隠は山中に住む。

山中は過度にさびれていて、都心は過度に騒々しい。

中隠となるほうがよく、ひっそりと洛陽勤務の官に就いているのが一番良い。

問３中隠は街中にいるようでもあり、山中にいるようでもあり、忙しすぎることもなく、暇を持て余すほどでもない。

肉体も精神も疲労することなく、衣食にも不自由することがない。

一年中役所での仕事に追われることがないのに、毎月給料はもらえる。

あなたがもし山登りが好きなら、町の南には秋の山がある。

あなたがもし行楽が好きなら、町の東には春の公園がある。

あなたがもし一杯飲みたいなら、時折宴席に顔を出せばよい。

洛陽には徳の高い立派な人が多く、いつでも自由に話ができる。

あなたがもし一人で寝そべっていたいなら、自分で門を固く閉ざせばよい。

馬車に乗った客人が、気ままに訪問してくることもない。

人間は一生の間に、二つの道を全うすることは難しい。

貧しければ飢えや寒さに苦しみ、貴顕なる身には心労がつきまとう。

ただこの中隠だけが、幸多く安らかな人生を送ることができる。

困窮と栄達、富貴と貧賤、まさしくこの四者の間に中隠は存在するのだから。